

# 文化庁「各地方言収集緊急調査」方言談話資料について

著者	井上 文子
発行年	2023-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1328/00003715/">http://id.nii.ac.jp/1328/00003715/</a>

## 文化庁「各地方言収集緊急調査」方言談話資料について

井上文子（国立国語研究所）

（要旨）

「各地方言収集緊急調査」は、1977～1985 年度に、文化庁が実施した全国規模の方言談話の収録事業である。「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的でおこなわれた。

収録対象は、全都道府県の方言による自由会話、場面設定の会話、民話などの談話である。47 都道府県を、実施時期ごとに、第 1 次(1977～1979 年度)から第 7 次(1983～1985 年度)に分け、それぞれ 3 年計画で収録した。各都道府県において、それぞれ 5 地点程度を選定し、1 地点につき 1 年度あたり 10 時間程度の方言会話を録音し、そのうち、自然な方言会話の部分を 3 時間程度選んで、文字化をおこない、共通語訳をつけて、記録として残す、というものであった。

その録音と文字化・共通語訳は、日本全国の方言談話のカセットテープと、談話の一部を文字化した手書き原稿として、各都道府県教育委員会から文化庁に提出され、その後、国立国語研究所に移管された。

国立国語研究所では、「各地方言収集緊急調査」資料の一部をデジタル化し、

・国立国語研究所編（2001-2008）『国立国語研究所資料集 13 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全 20 巻 [各巻：冊子 1 冊+CD-ROM1 枚+CD1 枚] 国書刊行会

・「日本語諸方言コーパス (COJADS)」(<https://www2.ninjal.ac.jp/cojads/>)

として公開しているが、さらなる活用と迅速な公開を目指して、下記のプロジェクトが共同で、方言談話の音声とテキストのデータ整備を進めている。

・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所 共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」（プロジェクトリーダー：山田真寛）

・JSPS 科研費 22HP8004 研究成果公開促進費データベース「日本の危機言語・方言データベース」（代表者：井上文子）

・JSPS 科研費 20H00015 基盤研究 (A) 『『全国方言文法辞典』データベースの拡充による日本語時空間変異対照研究の多角的展開』（研究代表者：日高水穂）

・JSPS 科研費 21H04351 基盤研究 (A) 「日本語諸方言コーパスによる方言音調の比較類型論的研究」（研究代表者：木部暢子）

・「みんなで談話整備プロジェクト 文化庁「各地方言収集緊急調査」資料の整備と活用」(<https://sites.google.com/view/danwaseibi/>)

\*\*\*\*\*

「各地方言収集緊急調査」は、1977(昭和 52)～1985(昭和 60)年度に、文化庁が実施した全国規模の方言談話の収録事業である。「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的でおこなわれた。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47 都道府県は、実施時期

ごとに、第1次(1977(昭和52)～1979(昭和54)年度)から第7次(1983(昭和58)～1985(昭和60)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で収録を実施した。

各都道府県教育委員会は、言語学・国語学・方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

#### (1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

#### (2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

#### (3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)

②老年層の男性2人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

③老年層の女性2人の対話、または、老年層の女性3人の会話(1時間)

④老年層と若年層との対話、または、両者を含む3人の会話(1時間)

⑤老年層の男性2人の、目上の者と目下の者の対話(2時間)

⑥場面設定の対話(1時間、各場面につき1～3分程度)

場面に応じて、老年層の男性2人の対話、または、老年層の男女各1人による対話

⑦当該地域に伝わる民話(1時間)

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は、

⑧老年層の女性2人の、目上の者と目下の者の会話(1時間)

または、

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2人の対話(1時間)

を収録する。

①～⑤、⑧、⑨については、話題は自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は、自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ、「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各都道府県教育委員会が協議して、全国共通の数場面を設定する。

#### (4) 調査地点

調査地点は、各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて、各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上、複数の区域に分かれる場合は、方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に、離島など、特色の認められる方言は可能な限り収録する。(本稿末尾につけた「各地方言収集緊急調査」地点一覧を参照。)

#### (5) 話者

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、よその土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

#### (6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ(正)を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ(副)を2本作成する。

#### (7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿(正)を1部、正の複製(副)を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力しておこなわれた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得た。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行しているが、市販はされておらず一般には入手しにくいものとなっている。また、その形態は印刷物で、電子化された文字化テキストを備えたものはなかった。録音テープを添付しているものも少数であった。「各地方言収集緊急

調査」報告資料のほとんどは、まったくの未公開となっていた。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープと文字化原稿を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを計画した。「各地方言収集緊急調査」報告資料の一部をデジタル化して整備し、

- ・国立国語研究所編（2001-2008）『国立国語研究所資料集 13 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全 20 巻 [各巻：冊子 1 冊+CD-ROM1 枚+CD1 枚] 国書刊行会  
（※国立国語研究所学術情報リポジトリ (<https://repository.ninjal.ac.jp/>) で冊子の PDF を公開）

- ・「日本語諸方言コーパス (COJADS)」 (<https://www2.ninjal.ac.jp/cojads/>) として公開している。

2022(令和 4)年度からは、さらなる活用と迅速な公開を目指して、下記のプロジェクトが共同で、方言談話の音声とテキストのデータ整備を進めている。

- ・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所 共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」（プロジェクトリーダー：山田真寛）
- ・JSPS 科研費 22HP8004 研究成果公開促進費データベース「日本の危機言語・方言データベース」（代表者：井上文子）
- ・JSPS 科研費 20H00015 基盤研究 (A) 『『全国方言文法辞典』データベースの拡充による日本語時空間変異対照研究の多角的展開』（研究代表者：日高水穂）
- ・JSPS 科研費 21H04351 基盤研究 (A) 「日本語諸方言コーパスによる方言音調の比較類型論的研究」（研究代表者：木部暢子）
- ・「みんなで談話整備プロジェクト 文化庁「各地方言収集緊急調査」資料の整備と活用」 (<https://sites.google.com/view/danwaseibi/>)

※「各地方言収集緊急調査」の詳細については、以下を参照。

- ・国立国語研究所編（2001-2008）『国立国語研究所資料集 13 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全 20 巻 [各巻：冊子 1 冊+CD-ROM1 枚+CD1 枚] 国書刊行会（巻末「公開と作成の経緯」の「各地方言収集緊急調査」について）」
- ・国立国語研究所学術情報リポジトリ (<https://repository.ninjal.ac.jp/>) で公開している上記冊子 PDF
- ・「みんなで談話整備プロジェクト 文化庁「各地方言収集緊急調査」資料の整備と活用」 (<https://sites.google.com/view/danwaseibi/>) の「資料概要」

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡楸法華村（→函館市）
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

青森県

- 02a 下北郡川内町（→むつ市）
- 02b 北津軽郡市浦村（→五所川原市）
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町
- 02e 弘前市

岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町（→南三陸町）
- 04b 栗原郡築館町（→栗原市）
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村（→仙北市）
- 05d 河辺郡雄和町（→秋田市）
- 05e 湯沢市

山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町（→鶴岡市）

- 06d 東田川郡朝日村（→鶴岡市）
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

#### 福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町（→会津美里町）
- 07c 大沼郡昭和村

#### 茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村（→常陸太田市）
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村（→鹿嶋市）
- 08e 古河市

#### 栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町（→佐野市）

#### 群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

#### 埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀬町
- 11f 入間郡大井町（→ふじみ野市）

#### 千葉県

- 12a 海上郡飯岡町（→旭市）
- 12b 印旛郡印西町（→印西市）

12c 長生郡長生村

12d 木更津市

12e 館山市

#### 東京都

13a 台東区

13b 西多摩郡檜原村

13c 大島町

13d 三宅村

13e 八丈町

#### 神奈川県

14a 愛甲郡愛川町

14b 横須賀市

14c 秦野市

14d 小田原市

#### 新潟県

15a 村上市

15b 西蒲原郡分水町（→燕市）

15c 十日町市

15d 糸魚川市

15e 佐渡郡佐和田町（→佐渡市）

#### 富山県

16a 黒部市

16b 富山市

16c 氷見市

16d 砺波市

16e 東礪波郡上平村（→南砺市）

#### 石川県

17a 羽咋郡押水町（→宝達志水町）

#### 福井県

18a 坂井郡芦原町（→あわら市）

18b 勝山市

18c 南条郡南条町（→南越前町）

18d 敦賀市

18e 遠敷郡名田庄村（→大飯郡おおい町）

## 山梨県

- 19a 塩山市 (→甲州市)
- 19b 大月市
- 19c 韮崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

## 長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曾郡開田村 (→木曾町)

## 岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村 (→揖斐川町)

## 静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町 (→川根本町)
- 22c 磐田郡水窪町 (→浜松市)
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

## 愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町 (→北名古屋市)
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

## 三重県

- 24a 安芸郡美里村 (→津市)
- 24b 阿山郡阿山町 (→伊賀市)
- 24c 志摩郡阿児町 (→志摩市)

24d 北牟婁郡海山町（→紀北町）

24e 南牟婁郡御浜町

#### 滋賀県

25a 長浜市

25b 高島郡安曇川町（→高島市）

25c 神崎郡能登川町（→東近江市）

25d 大津市

25e 甲賀郡甲賀町（→甲賀市）

#### 京都府

26a 中郡峰山町（→京丹後市）

26b 舞鶴市

26c 船井郡丹波町（→京丹波町）

26d 京都市

26e 相楽郡山城町

#### 大阪府

27a 高槻市

27b 大阪市

27c 八尾市

27d 河内長野市

27e 泉佐野市

#### 兵庫県

28a 豊岡市

28b 朝来郡生野町（→朝来市）

28c 神戸市

28d 相生市

28e 洲本市

#### 奈良県

29a 大和郡山市

29b 宇陀郡榛原町（→宇陀市）

29c 五條市

29d 吉野郡下北山村

29e 吉野郡十津川村

#### 和歌山県

30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町

(→岩出市・紀の川市)

- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

#### 鳥取県

- 31a 鳥取市
- 31b 米子市
- 31c 日野郡日野町

#### 島根県

- 32a 仁多郡仁多町 (→奥出雲町)
- 32b 出雲市
- 32c 浜田市
- 32d 隠岐郡西郷町 (→隠岐の島町)
- 32e 隠岐郡西ノ島町

#### 岡山県

- 33a 勝田郡勝央町
- 33b 新見市
- 33c 岡山市
- 33d 小田郡矢掛町
- 33e 笠岡市

#### 広島県

- 34a 三次市
- 34b 府中市
- 34c 広島市
- 34d 因島市 (→尾道市)
- 34e 安芸郡倉橋町 (→呉市)

#### 山口県

- 35a 萩市
- 35b 大島郡大島町 (→周防大島町)
- 35c 徳山市 (→周南市)
- 35d 美祢市
- 35e 豊浦郡豊北町 (→下関市)

#### 徳島県

- 36a 鳴門市
- 36b 阿南市
- 36c 美馬郡脇町（→美馬市）
- 36d 海部郡海南町（→海陽町）
- 36e 三好郡東祖谷山村（→三好市）

#### 香川県

- 37a 小豆郡土庄町
- 37b 木田郡三木町
- 37c 丸亀市
- 37d 仲多度郡多度津町
- 37e 観音寺市

#### 愛媛県

- 38a 越智郡大三島町（→今治市）
- 38b 西条市
- 38c 松山市
- 38d 大洲市
- 38e 宇和島市

#### 高知県

- 39a 室戸市
- 39b 高知市
- 39c 高岡郡檮原町
- 39d 幡多郡三原村

#### 福岡県

- 40a 北九州市
- 40b 遠賀郡芦屋町
- 40c 築上郡新吉富村（→上毛町）
- 40d 飯塚市
- 40e 嘉穂郡稲築町（→嘉麻市）
- 40f 福岡市
- 40g 八女市

#### 佐賀県

- 41a 東松浦郡鎮西町（→唐津市）
- 41b 鳥栖市
- 41c 佐賀市
- 41d 武雄市

長崎県

- 42a 壱岐郡芦辺町（→壱岐市）
- 42b 平戸市
- 42c 長崎市
- 42d 南松浦郡奈良尾町（→新上五島町）

熊本県

- 43a 阿蘇郡阿蘇町（→阿蘇市）
- 43b 熊本市
- 43c 球磨郡錦町
- 43d 天草郡天草町（→天草市）

大分県

- 44a 東国東郡国東町（→国東市）
- 44b 宇佐市
- 44c 大分郡挾間町（→由布市）
- 44d 佐伯市
- 44e 日田郡前津江村（→日田市）

宮崎県

- 45a 延岡市
- 45b 東臼杵郡椎葉村
- 45c 宮崎市
- 45d 北諸県郡山田町（→都城市）
- 45e 日南市

鹿児島県

- 46a 出水市
- 46b 揖宿郡穎娃町
- 46c 熊毛郡上屋久町
- 46d 大島郡龍郷町

沖縄県

- 47a 国頭郡今帰仁村
- 47b 那覇市
- 47c 平良市（→宮古島市）
- 47d 石垣市
- 47e 八重山郡与那国町